

我が家の防災メモ

住 所			電 話		
家族メモ	氏 名	持病(通院病院)	会社・学校などの住所	携帯電話など	
	生年月日(血液型)	常用薬	会社・学校などの電話		

安心メモ	避難場所	
	家族が離ればなれになったときの集合場所	
	親類・知人など共通の連絡先	

緊急連絡先	連絡先	電 話	連絡先	電 話
	消防署	119(局番なし)	水道(建設水道課)	0224-83-6407
	警察署	110(局番なし)	電気()	
	救急病院		ガス()	
	町役場	0224-83-2111		



M u r a t a T o w n

村田町

D i s a s t e r P r e v e n t i o n G u i d e

防災読本



地 震



洪 水



土砂災害



火 災

日ごろの備えと早めの避難を!
お隣やご近所にも声を掛け合って!!

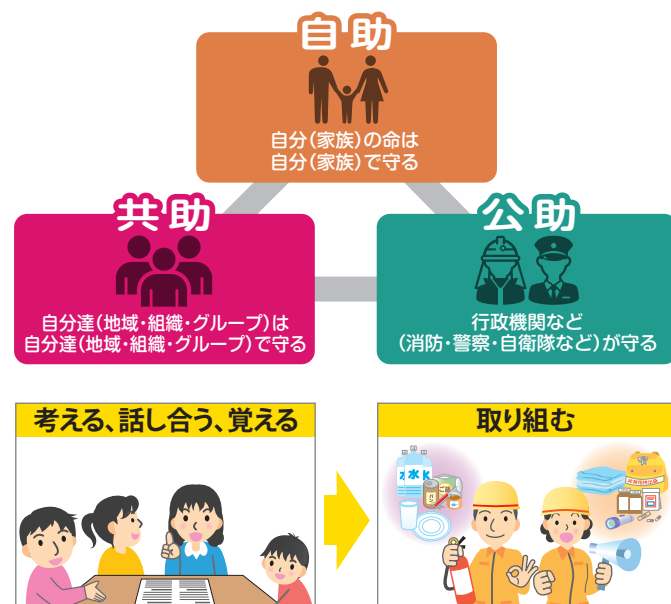


防災読本の活用方法

大規模災害時にみなさんの命を守るためには、行政主導の対策のみでは限界があり、「自らの命は自らが守る」という意識を持ち、住民、事業者など、さまざまな主体による「自助」「共助」の取り組みを強化する必要があります。

「村田町防災読本」は、みなさんが災害のことを知り、命を守るための行動について考え、いざというときに備えていただくことを目的に作成しています。

「村田町防災読本」とハザードマップなどの資料を活用して、家族や地域で話し合い、災害に備えましょう。



目次

はじめに

防災読本の活用方法	1
全国で発生した近年の主な災害	2
村田町における主な災害	3

地震

地震が発生したらどうなるか、考えてみましょう	4
地震が発生したらこうなる！	5
地震発生時の行動	6
地震に備えましょう	7

大雨(洪水・土砂災害)

大雨のとき、どんな危険があるか、考えてみましょう	8
大雨のときに災害が発生したらこうなる！	9
大雨のときに発表される情報	11
大雨のときに役立つ情報	13
大雨のときの避難行動を覚えておきましょう	15
大雨に備えましょう	17

火災

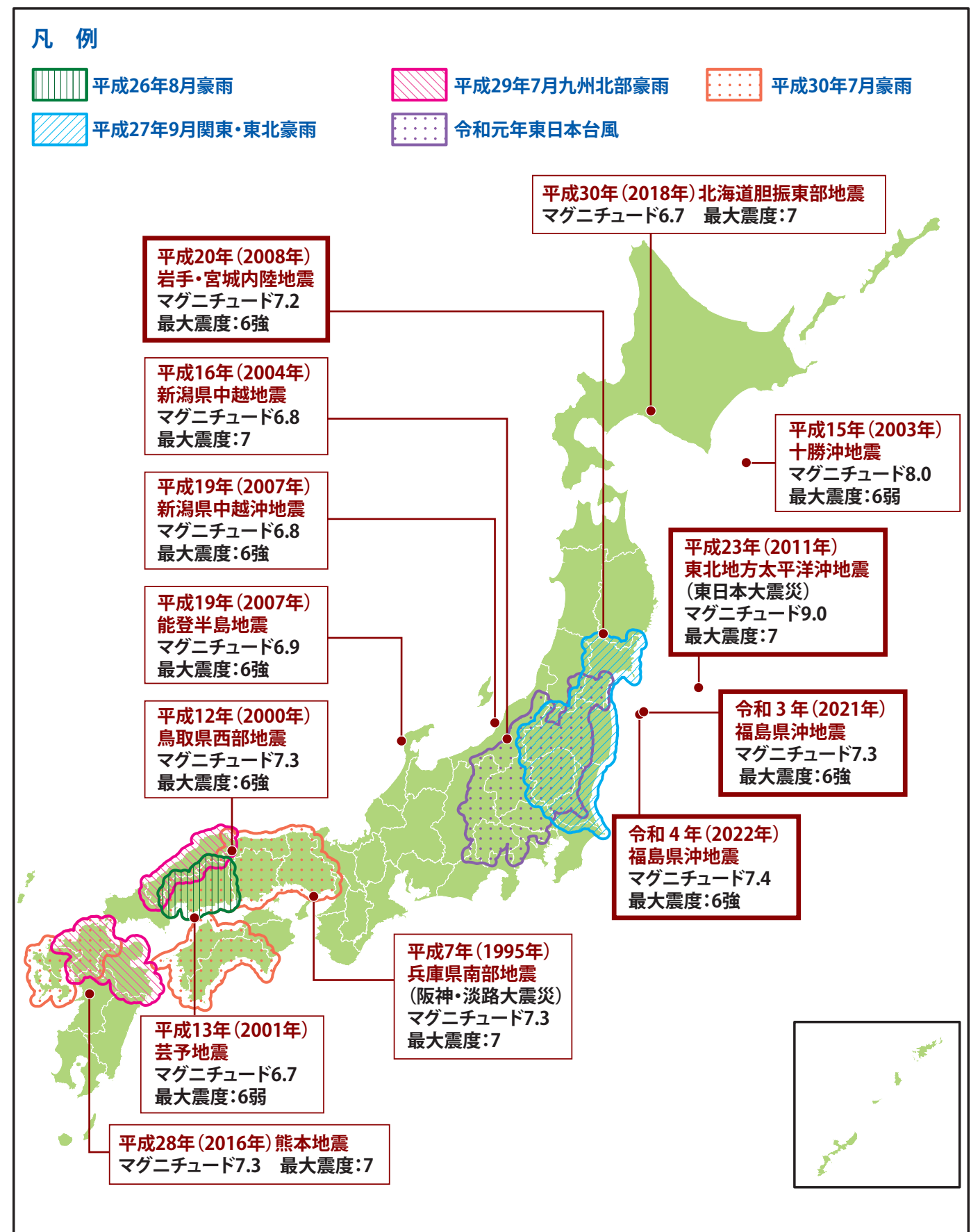
家で火事がおこったらどうすればよいか、考えてみましょう	18
火事を見つけたら	19
火災の原因	20
火災予防対策	21

災害に対する備え

日ごろから取り組むこと	22
町の避難施設	23
新型コロナウイルス感染症	25
非常持出品・備蓄品	27
防災関連情報の入手先	28
マイ・タイムライン(一人ひとりの防災行動計画)	29
地震発生！そのときどうする？	31
火災発生！初期対応の3原則を覚えましょう	32
災害に遭わないために 被災者からの声～一日前プロジェクト～	33
防災に関する地域の取り組み	35
町の取り組み	37
チャレンジテスト	38

全国で発生した近年の主な災害

平成7年の兵庫県南部地震以降、全国各地で大きな被害を伴う大規模地震が発生しています。また、地球温暖化などの影響を受け、豪雨災害も頻発し、広範囲で甚大な被害が発生しています。



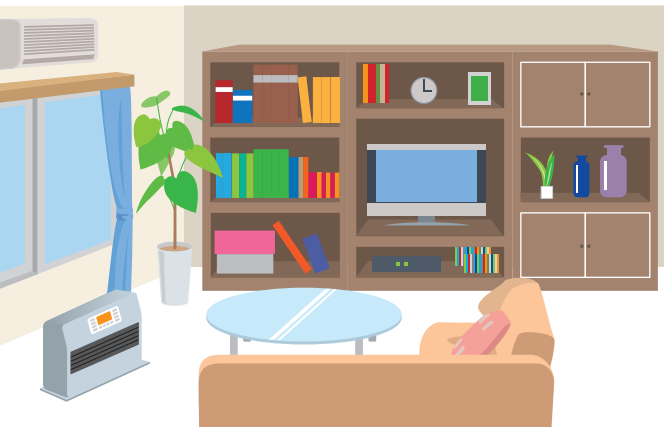
村田町における主な災害

種 別	日 付	被害状況
風水害	昭和61年8月5日	集中豪雨 台風10号くずれの温帯低気圧により352.5mmの大雨となった。 菅生地区で民家の裏山が崩壊し、一家5人が生き埋めとなった。 被害状況:死者3人 など
	平成元年8月6日～7日	集中豪雨 台風13号により157mmの豪雨となった。 住家被害:床下浸水9世帯 など
	平成元年8月27日	集中豪雨 台風17号により112.5mmの豪雨となった。 住家被害:床下浸水17世帯 など
	平成6年9月22日	集中豪雨 菅生、姥ヶ懐地区が激しい421mmの局地豪雨に見舞われた。 菅生地区の42世帯に避難勧告が出された。
	平成14年7月11日	大洪水 台風6号により総雨量250mmの豪雨となり、阿武隈川水系荒川(40m)と新川(30m)が破堤した。 住家被害:床上浸水17世帯 など
	平成16年4月26日	地すべり 菅生字平地区に地割れを発見し、12世帯39名に対し避難指示を行い、地山全体の対策、恒久工事を行った。
	平成23年9月21日	大雨《台風15号》 時間雨量40mmを超える時間帯があった。新川破堤(はまえば橋付近右岸左岸2箇所) 住家被害:床下浸水3世帯 など
	平成24年6月19日～20日	大雨《台風4号》 雨の状況【累加雨量】上村田160mm、上菅生189mm 新川破堤(沼辺字新西小沼付近左岸L=15m、右岸L=20m) 住家被害:床下浸水5世帯、床上浸水1世帯 など
	平成27年9月9日～11日	大雨《台風18号》 雨の状況【累加雨量】村田観測局178mm、上菅生観測局286mm 住家被害:床上浸水3世帯、床下浸水21世帯 など
	令和元年10月12日～13日	集中豪雨・洪水《令和元年東日本台風(台風19号)》 雨の状況【累加雨量】村田観測局242mm、上菅生観測局345mm 住家被害:床上浸水158世帯、床下浸水65世帯、土砂13世帯 など
地震	昭和53年6月12日	《宮城県沖地震》 震源地:金華山沖東方60km、深さ40km、M7.4(震度5) 被害状況:死者1名、負傷者2名、家屋の被害:半壊38戸、一部破損245世帯 など
	平成23年3月11日	《東北地方太平洋沖地震》 震源地:三陸沖、深さ約24km、M9.0(震度5強) 被害状況:死者0名(町外で3名)、避難者 延べ1,404名 家屋の被害:全壊9戸、半壊115戸、一部破損643棟 など
	平成23年4月7日	《宮城県沖地震》 震源地:宮城県沖、深さ約66km、M7.1(震度5弱) ※被害状況:東北地方太平洋沖地震による被害に含む
	令和3年2月13日	《福島県沖地震》 震源地:福島県沖、深さ約55km、M7.3(震度5強) 被害状況:人的被害なし、避難者なし 家屋の被害:中規模半壊2戸、半壊1戸、準半壊8戸、一部損壊235戸 など
	令和4年3月16日	《福島県沖地震》 震源地:福島県沖、深さ約57km、M7.4(震度5強) 被害状況:重傷者1名、避難者 1世帯4名 家屋の被害:半壊2戸、準半壊29戸、一部損壊228戸 など
火 災	平成17年5月3日、4日、5日	《菅生二流林野火災》 5/3午後3時30分頃出火し、午後8時53分鎮火。焼損面積0.4ha。 5/4午後1時40分頃出火、5/5午後5時40分鎮火。 県内外関係機関や防災ヘリなどでの対応ができず、自衛隊に協力要請を行った。 乾燥注意報発令中の山林、焼損面積42.39ha(村田町分29.6ha、名取市分12.79ha) など
		ほか、近年火災が多発しており、令和元年～令和3年に計28件の火災が発生している

地震が発生したらどうなるか、考えてみましょう

地震が発生したらどうなるか、家の中と外、それぞれで考えてみましょう。また、想定される被害を考えてみましょう。

●家の中では



●家の外では



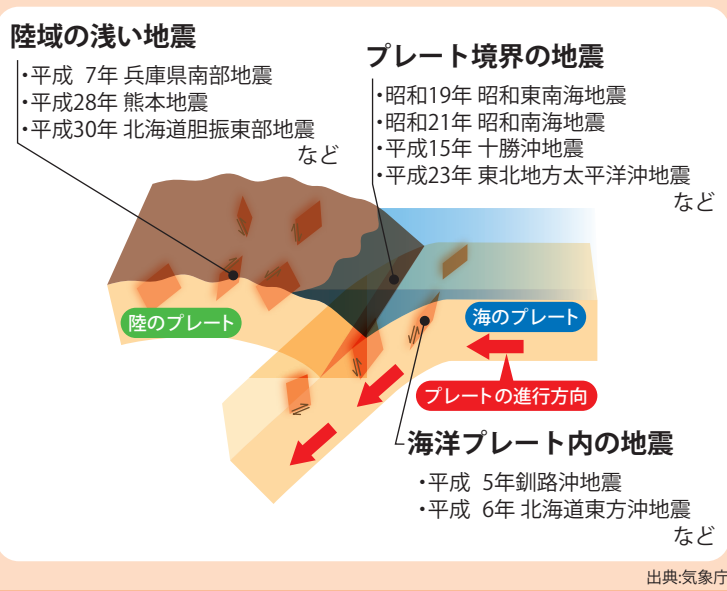
●地震のとき、どんな危険があるか考えてみましょう。

想定される危険	備えが必要な点
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----

コラム 日本における地震のタイプ

日本は、世界でも有数の地震多発地帯であり、世界で起きている地震のおよそ1割にあたる地震が、日本とその周辺で発生しています。

日本とその周辺で発生する地震には大きく分けて3つのタイプがあります。陸に近いところで発生すると、強い揺れにより家屋の倒壊や地すべりなどの被害を生じることがあります。また、海域で発生すると、沿岸を襲う津波により広範囲で被害が生じることがあります。



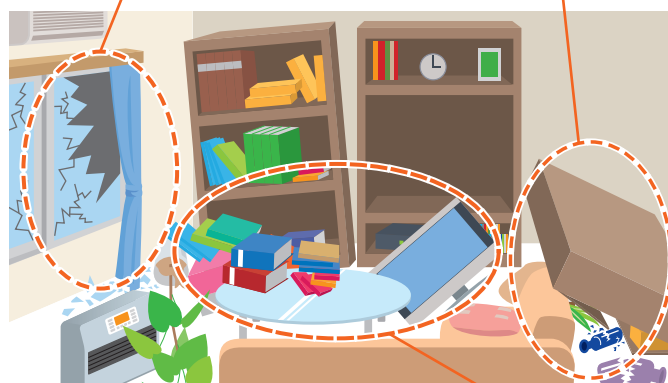
地震が発生したらこうなる！

想定される危険は、以下に示すようなものが考えられます。前のページで書き出した内容と照らし合わせながら確認してみましょう。

●家の中では

ガラスが割れる

棚が倒れる



物が落ちてくる

●家の外では

看板や瓦、ガラスなどが落ちてくる



道路の亀裂、陥没

電線が切れて垂れてくる

●その他の被害



建物倒壊による被害



土砂災害



道路寸断



液状化による被害



地震



交通手段の寸断、停止



出火・延焼による火災被害



ため池決壊による浸水被害



電気・ガス・水道の停止

コラム 震度と想定される被害

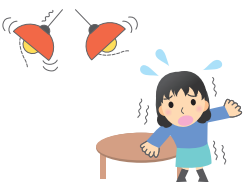
震度 4

- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることがある。



震度 5 弱

- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。



震度 5 強

- 物につかまらなると歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが多い。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。



震度 6 弱

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。



耐震性が低い



耐震性が高い

震度 6 強

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多い。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山の崩壊が発生することがある。



耐震性が低い



耐震性が高い

震度 7

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 耐震性の高い木造建物でも、傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。



耐震性が低い



耐震性が高い

出典：気象庁

地震発生時の行動

●地震発生時、避難時に気をつけること

〈地震発生時〉

家具の転倒、落下物に気をつけよう

頭を座布団などで保護して、丈夫な机やテーブルなどの下にもぐり、机などの脚をしっかりと握りましょう。



〈避難時〉

割れたガラスや食器類に気をつけよう

避難するときはスリッパや靴を履き、ガラスなどの破片から足を守りましょう。



屋外の落下物や切れた電線に気をつけよう

カバンなどで頭を保護し、できるだけ建物から離れましょう。ブロック塀や自動販売機の転倒、垂れてくる電線などにも気を付けましょう。



道路の亀裂、陥没に気をつけよう

道路の亀裂、陥没に注意しながら、車は道路外、または道路の左側に置いて鍵は差したまま避難しましょう。



●揺れがおさまったからの避難行動

1分～2分

火の元・家族の安全を確認

揺れがおさまったら家族で声を掛け合い、お互いの安全確認！

火の元の確認・初期消火



出口を確保



非常持出品の用意を！
ガスの元栓・電気のブレーカーを切る！



5分～10分

正しい情報をつかむ

大きな地震の後には、引き続き揺れが発生する可能性があります！

テレビ・ラジオなどで正しい情報を確認！



☑ テレビ・ラジオ

NHKなどのデータ放送や、ラジオ各局で地域の災害情報が流れます。

📢 屋外拡声器・広報車

屋外拡声器や広報車などで緊急情報をお知らせします。

✉ 緊急速報メール

避難指示の発令など緊急度の高い情報を、町内にある携帯電話に一斉送信します。

10分～数時間

✉ 村田町メール配信サービス

あらかじめ登録をした携帯電話などへ、緊急情報などの内容を配信します。

📱 村田町 LINE

【アカウント名】宮城県村田町
【ID】@murata-town

10分～数時間

状況に応じて冷静に対応

家屋倒壊の危険などがあれば、避難！

となり近所の安否確認



各町内会、自主防災会で安否確認を



地域ぐるみで協力し合って
救急、救護、初期消火

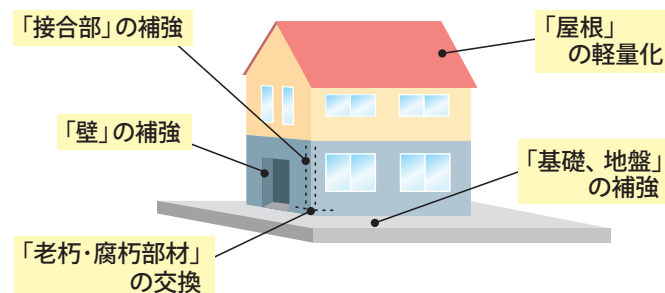


地震に備えましょう

住まいの耐震性や塀の強度を確認

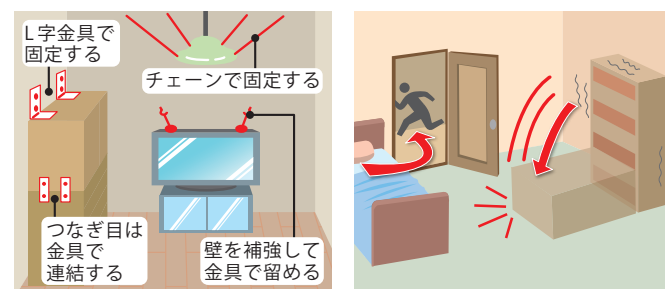
- 町では地震防災マップを作成しています。お住まいの地域を確認し耐震診断・改修について考えてみましょう。
- 町では、耐震診断や耐震改修工事、ブロック塀などの除去にかかる費用の助成を行っています。助成には要件があります。詳しくは建設水道課にお問い合わせください。

●家屋の耐震化例



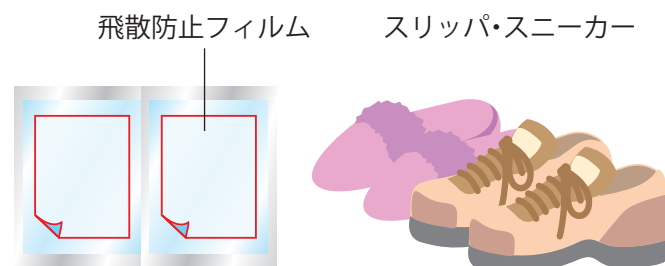
家具類の転倒・落下・移動防止対策

- 家具やテレビ、パソコンなどを固定し、転倒・落下・移動防止措置をしましょう。
- 家具類は、万一転倒しても、けがや避難に支障がでないよう配置しましょう。



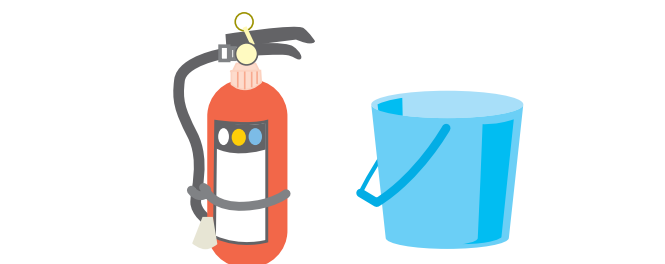
けがの防止対策

- 食器棚や窓ガラスなどには、ガラスの飛散防止措置をしておきましょう。また、散乱物でけがをしないようにスリッパやスニーカーなどを身近に準備しましょう。



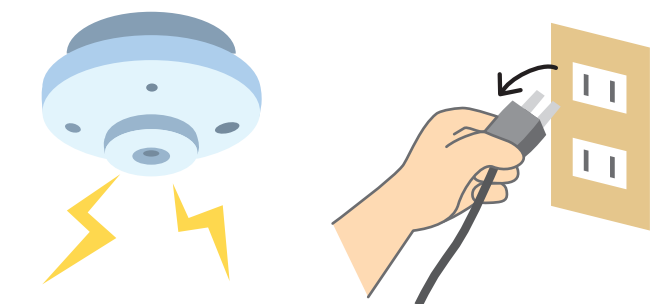
火災への備え

- 火災の発生に備えて消火器の準備や風呂の水のくみ置き(溺れ防止のため子どもだけで浴室に入れないようにする)をしましょう。



火災発生の早期発見と防止対策

- 火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を設置しておきましょう。
- 普段使用しない電気器具は、差込みプラグをコンセントから抜いておきましょう。
- 地震に起因する火災の発生を抑制するため、感震ブレーカー(分電盤型)などの防災機器を設置しておきましょう。



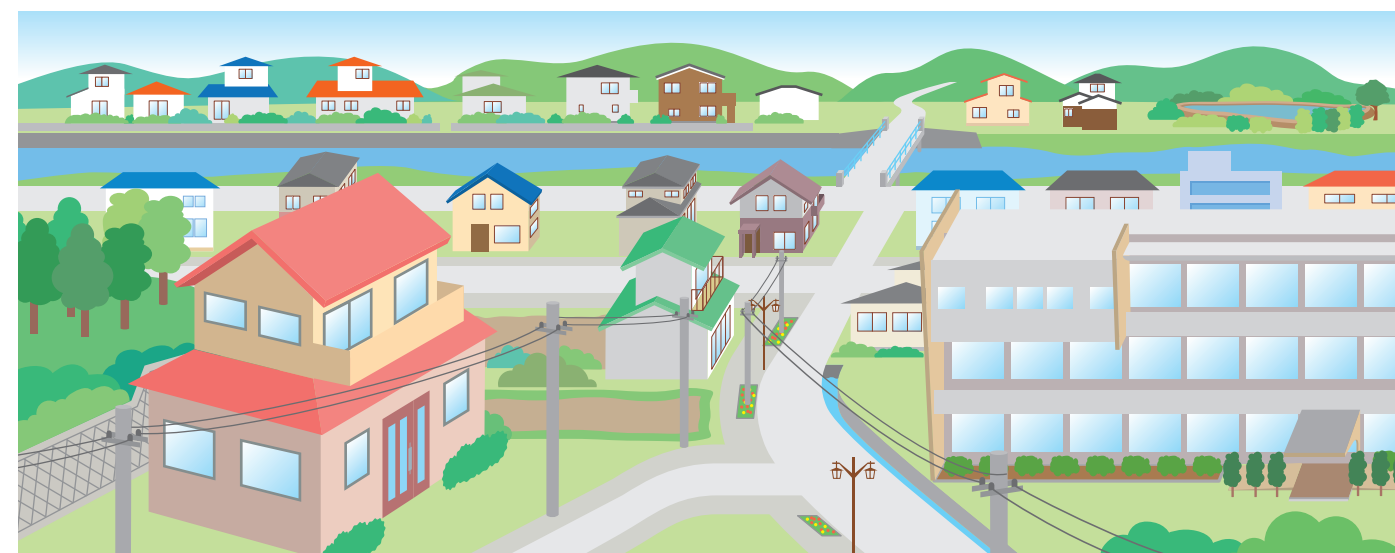
非常持出品、備蓄品

- P27を参考に非常持出品、備蓄品を準備しておきましょう。



大雨のとき、どんな危険があるか、考えてみましょう

大雨や台風の時、雨が降り続けると、川や山地部、ため池などはどうなるのでしょうか？考えられる危険なことを考えてみましょう。



●大雨や台風の時、どんな危険があるか考えてみましょう。

想定される危険	備えが必要な点

コラム 大雨の原因

積乱雲の発達

「大気の状態が不安定」なとき(上空に冷たい空気、地上に温かい空気の層があるとき)に発生します。

積乱雲が近づくサイン



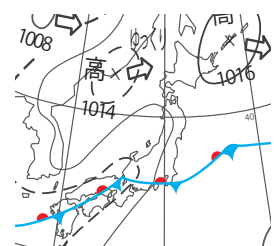
台風の接近

台風の接近に伴い、広い範囲で暴風雨の危険性が高まります。



前線の停滞

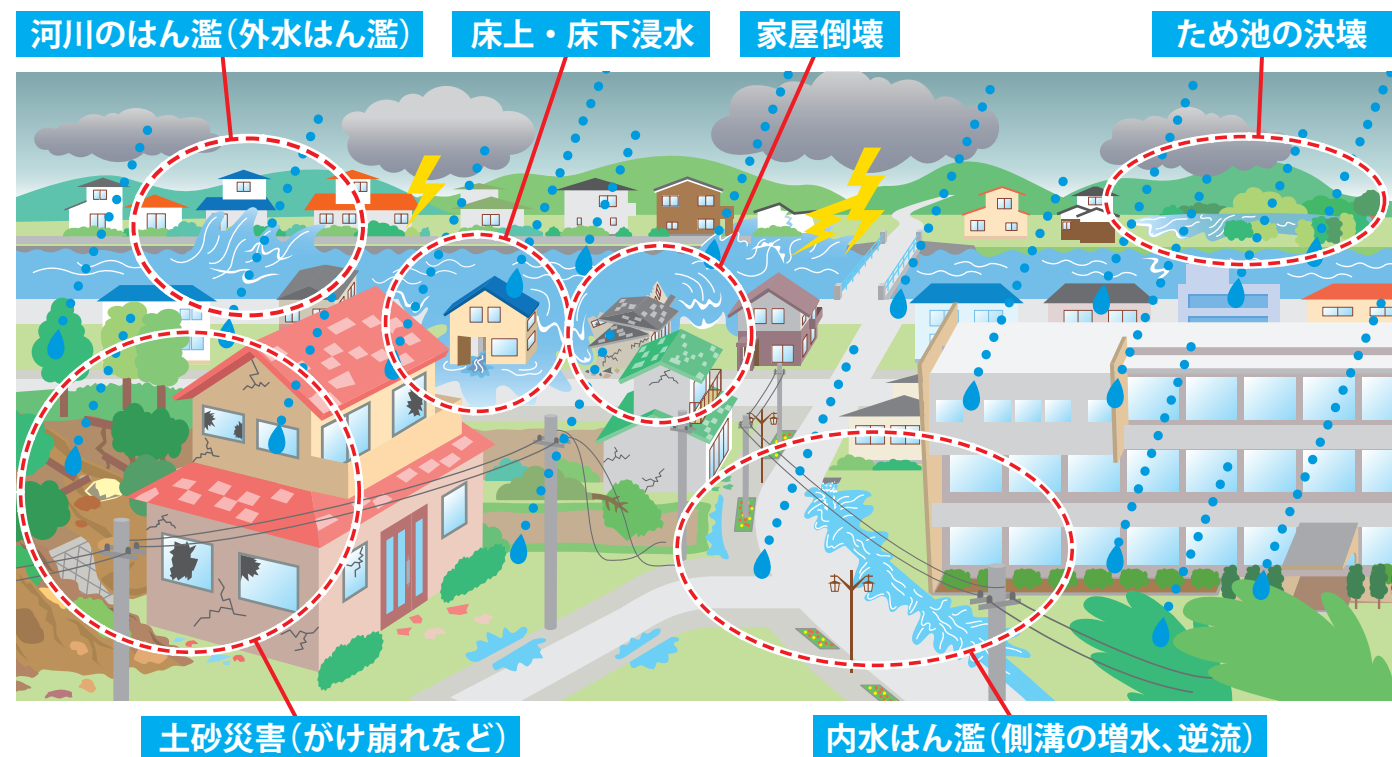
日本付近では6月ごろに梅雨前線、9月ごろに秋雨前線が停滞し、長期間にわたり雨が降り続くことがあります。



災害の危険性が高まったときは災害発生を予測し、危険な場所から離れましょう。また、危険な状況になる前に早めの避難を心がけましょう。

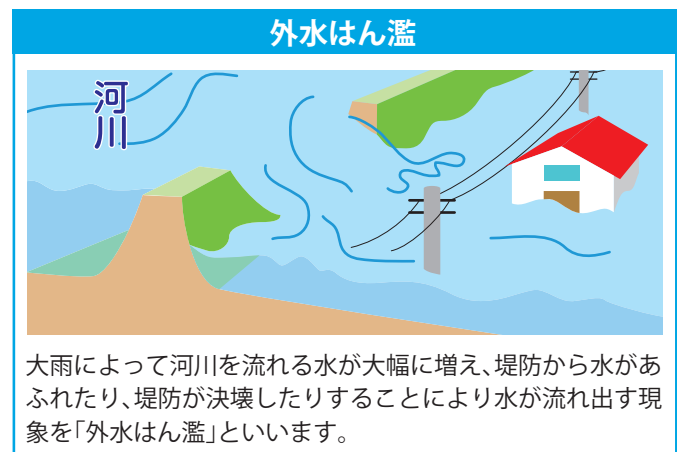
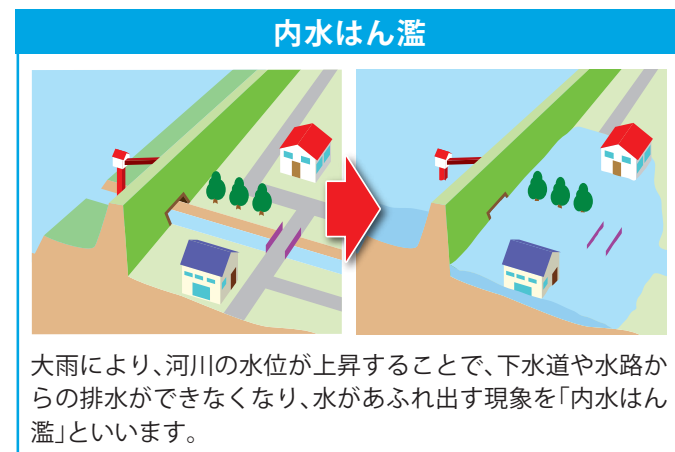
大雨のときに災害が発生したらこうなる！

想定される危険は、以下に示すようなものが考えられます。前のページで書き出した内容と照らし合わせながら確認してみましょう。



●大雨によって発生する災害

〈洪水・浸水害〉



〈ため池の決壊〉

ため池災害の特徴

- 大雨で急激な水位上昇が起きると、パイピング（水みち）や越流が発生し、ため池が決壊することがあります。
- 強い地震が起きた場合も、堤体の沈下、変形、斜面すべりなどにより、ため池が決壊することがあります。
- 堤防が決壊すると大量の水が短時間で押し寄せ、大きな被害が発生することがあります。



〈土砂災害〉

土石流



「土石流」は、大雨などをきっかけに谷底にたまった土砂や山腹から崩れ出した土砂が水と混じり合って一体となり、谷を一気に流れ下りる現象です。

急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）



「急傾斜地の崩壊」は、大雨などをきっかけに地面にしみ込んだ雨水により急な斜面の土砂が突然崩れ落ちる現象です。

地すべり



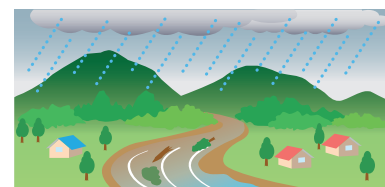
「地すべり」は、雨や地下水などをきっかけに山すそや丘陵地などの斜面で、地中のすべりやすい地層を境に地面がゆっくり動き出す現象です。

●土砂災害の前兆現象

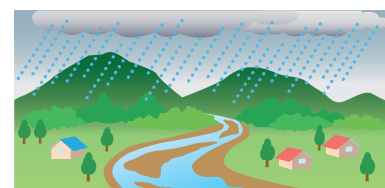
土石流がおきるかも…



山から大きな音がする。



川の色が茶色く濁る。



川の水位が下がる。

がけ崩れがおきるかも…



がけから水が湧き出る。

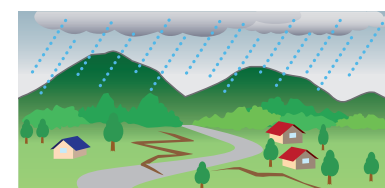


がけに割れ目が見える。

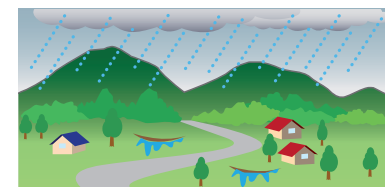


がけから小石が落ちてくる。

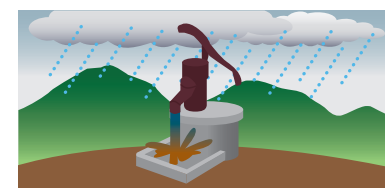
地すべりがおきるかも…



地面がひび割れている。



がけから水が湧き出る。



井戸の水が濁る。

●大雨によって想定される被害

道路の冠水



エンジンが停止する、ドアが開かず車内から出られないことがあります。

床下浸水・床上浸水



流れ込んでくる水は泥水であり、水が引いた後も土砂や汚泥が堆積するため、片付けが大変です。

家屋の倒壊



河川沿いでは、洪水により家屋が倒壊することもあります。

道路の寸断



土砂災害などで道路が寸断されて、集落が孤立することもあります。

大雨のときに発表される情報

大雨のときには、自ら情報を収集し、どのような避難行動をとるか考え行動することが重要です。適切な避難行動ができるように、5段階の「警戒レベル」を用いて、避難情報や防災気象情報などの防災情報が発表されます。一人ひとりがとるべき行動を平時から考えておきましょう。

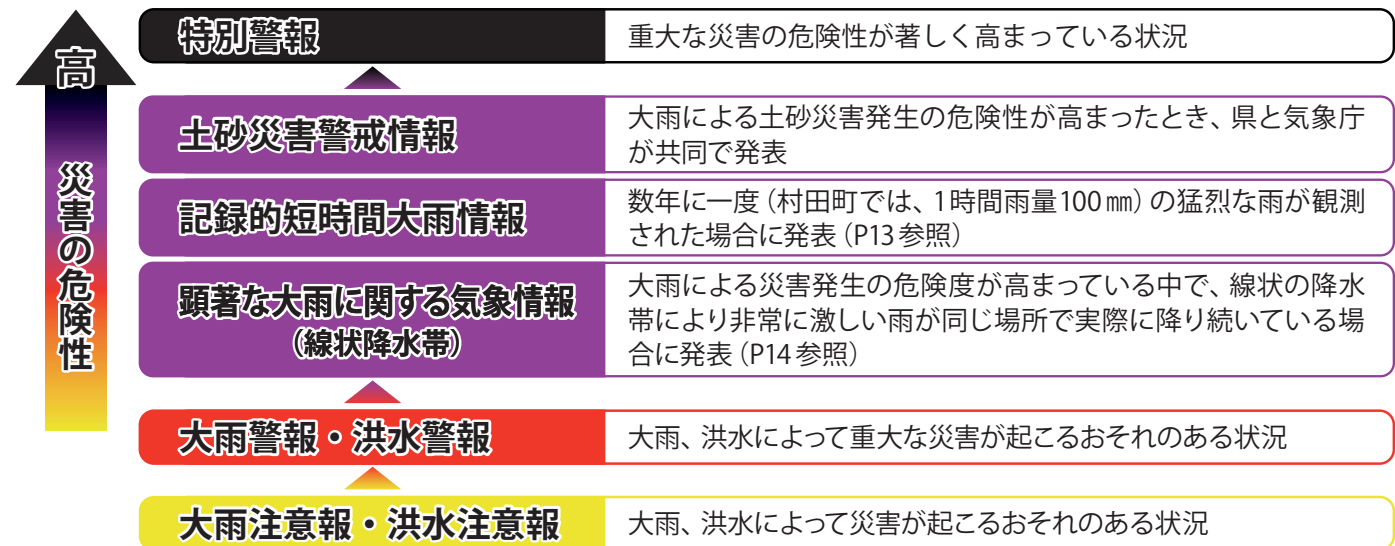
●警戒レベル

警戒レベル	避難情報	災害の状況	住民がとるべき行動	警戒レベル相当情報
5	緊急安全確保 (村田町が発令)	災害発生又は切迫 ※避難所などへの避難が安全にできない可能性がある状況。	命の危険 直ちに安全確保！ ●命の危険が迫っているため直ちに身の安全を確保する。	●大雨特別警報 ●氾濫発生情報 ●キキクル(危険度分布) 「災害切迫」(黒)

警戒レベル4までに必ず避難！

4	避難指示 (村田町が発令)	災害のおそれ高い ●河川の水位が氾濫危険水位を超えている。 ●土砂災害警戒情報が発表されているなど	危険な場所から全員避難 ●危険な場所から全員避難する。	●土砂災害警戒情報 ●氾濫危険情報 ●キキクル(危険度分布) 「危険」(紫)
3	高齢者等避難 (村田町が発令)	災害のおそれあり ●河川の水位が避難判断水位を超えている。 ●土砂災害のおそれが非常に高まっている。など	危険な場所から高齢者などは避難 ●避難に時間がかかる高齢者や障がいのある人は危険な場所から避難を開始する。	●大雨警報(土砂災害、浸水害) ●洪水警報 ●氾濫警戒情報 ●キキクル(危険度分布) 「警戒」(赤)
2	大雨・洪水注意報 (気象庁発表)	気象状況悪化	●防災ハザードマップで自宅などの災害リスクを把握し、状況を確認する。	●大雨注意報 ●洪水注意報 ●氾濫注意情報 ●キキクル(危険度分布) 「注意」(黄)
1	早期注意情報 (気象庁発表)	今後気象状況悪化のおそれあり	災害への心構えを高める。 ●非常持出品袋や備蓄品の確認。 ●自宅周辺の片づけ。など	●早期注意情報 (警報級の可能性)

●気象庁による防災気象情報



●緊急広報

町は次の手段で避難情報などの情報を発信します。

- ◇緊急速報メール
- ◇テレビ、ラジオ
- ◇SNS など (LINE・フェイスブック)
- ◇町ホームページ
- ◇メール配信サービス
- ◇外部スピーカー
- ◇広報車



●雨の降り方と雨量の目安

予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間雨量 (mm)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
イメージ					
状況	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る。	滝のように降る (ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感があり恐怖を感じる

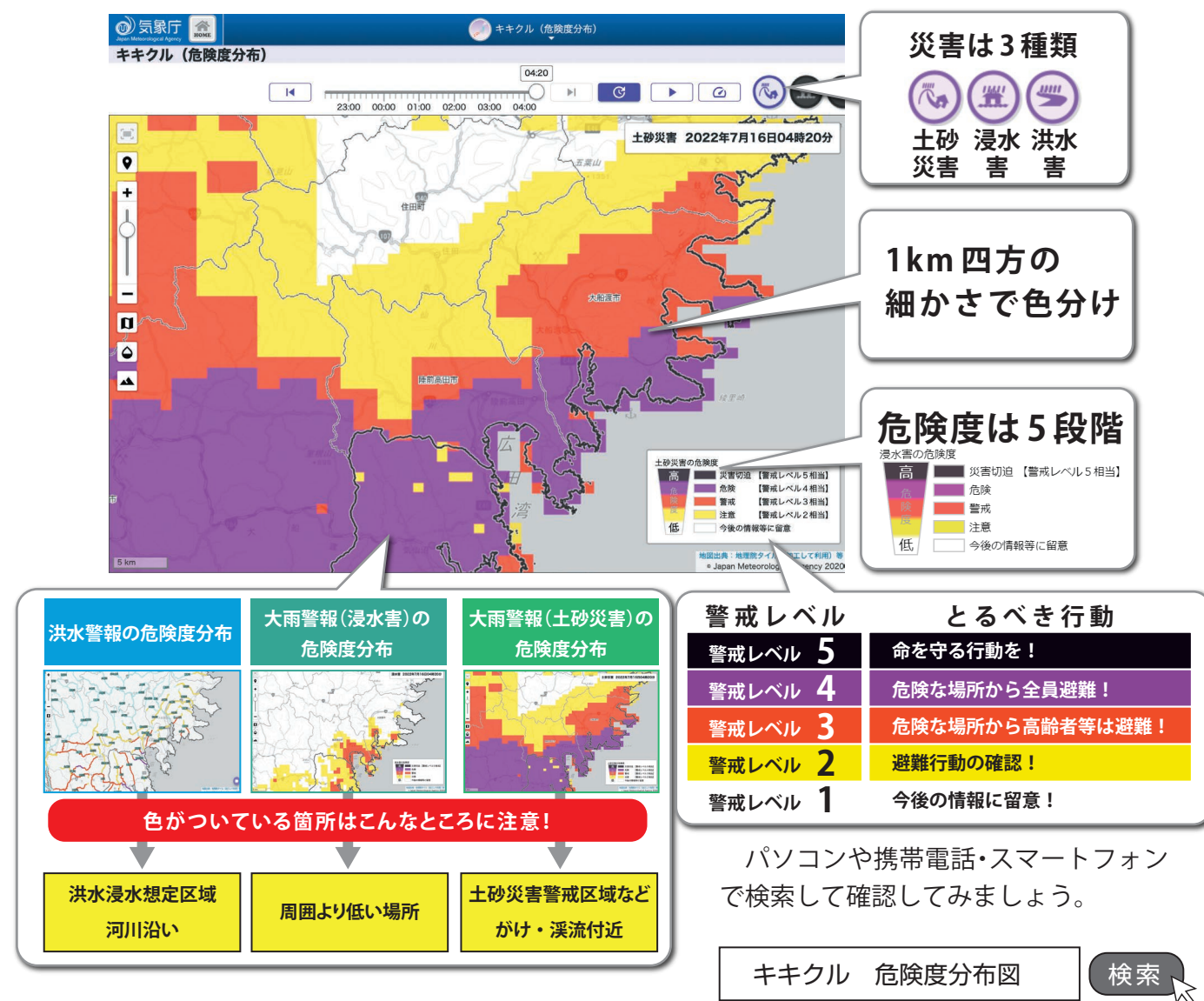
出典：気象庁

大雨のときに役立つ情報

●キキクル(危険度分布)

気象庁では、大雨による洪水・浸水害・土砂災害の危険度をホームページで色分けして掲載しています。ここでは、白、黄、赤、紫、黒の順に危険度が高いことを示しています。

危険度は、11ページの警戒レベルと色がリンクしており、例えば紫色で塗られている地域は警戒レベル4(災害のおそれが高く、危険な場所から全員避難する状況)を示します。



●記録的短時間大雨情報

記録的短時間大雨情報とは、数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測、解析したときに発表する情報です。現在の降雨が土砂災害や浸水害、中小河川の洪水災害の発生につながるような、稀にしか観測しない雨量であることを知らせる情報で、雨量基準を満たし、かつ、大雨警報発表中に、キキクル(危険度分布)の「危険」(紫)が出現している場合に発表します。

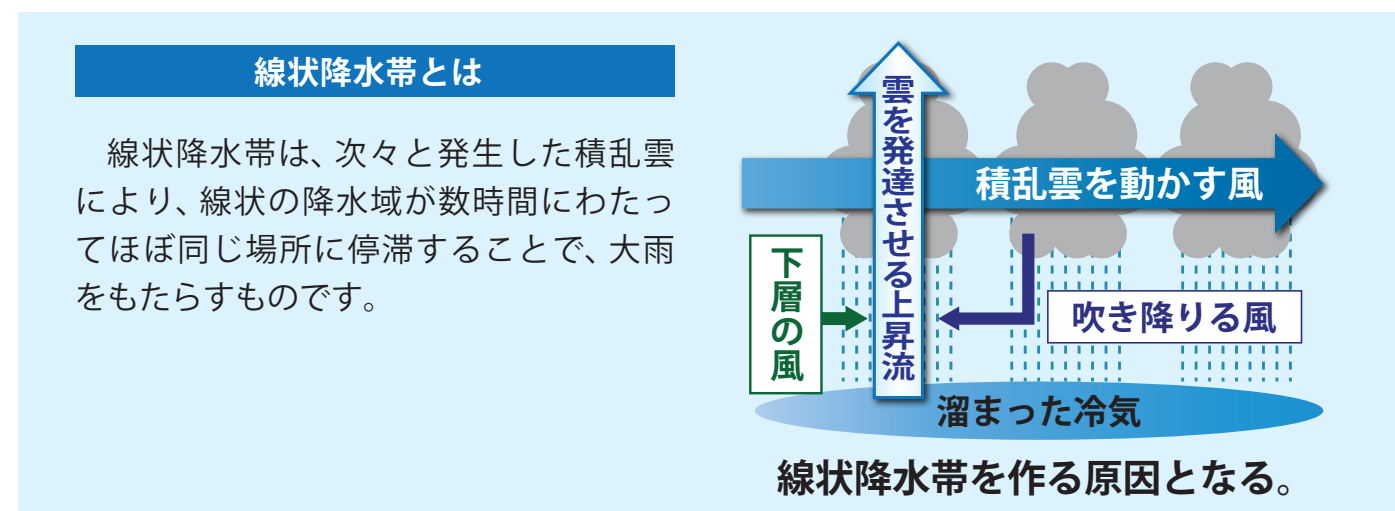


●顕著な大雨に関する気象情報(線状降水帯)

顕著な大雨に関する気象情報は、大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で実際に降り続いている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説する情報です。

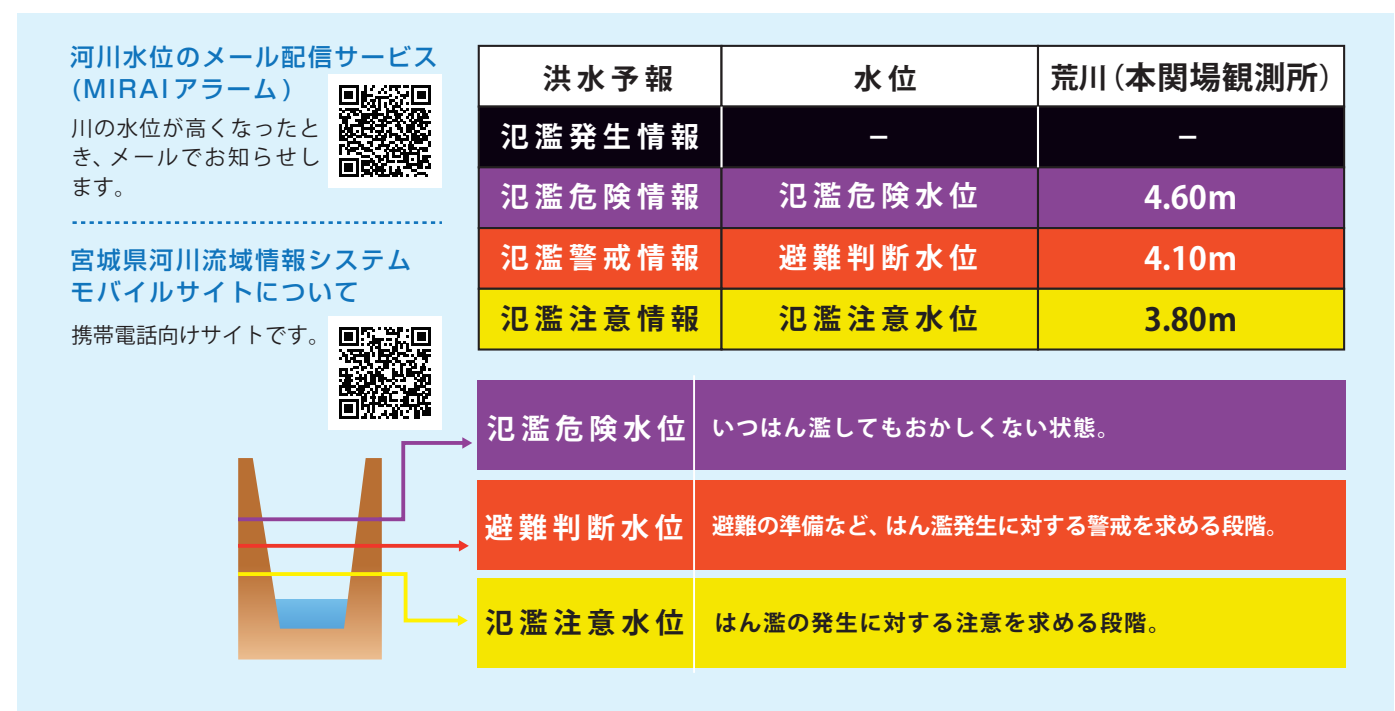
この情報は、警戒レベル相当情報を補足する情報で警戒レベル4相当以上の状況で発表されます。

避難情報やキキクル(危険度分布)などの防災気象情報と併せて活用し、自ら避難を判断しましょう。



●洪水予報

荒川では水位によってははん濫の危険性が決められており、氾濫警戒情報などの洪水予報として発表されます。各洪水予報は色分けされていて、11ページの警戒レベルと色がリンクしています。河川の水位の状況は宮城県河川流域情報システムから確認することができます。



大雨のときの避難行動を覚えておきましょう

町では、洪水ハザードマップ、防災ハザードマップを作成しています。各ハザードマップで浸水の範囲や深さ、土砂災害の危険性などを確認し、適切な避難行動を取りましょう。

- 浸水の深さが3m以上
- 家屋倒壊等氾濫想定区域の中
- 土砂災害警戒区域の中

立退き避難が必要
早めに行動！

●避難行動について

避難行動は「水平避難（立退き避難）」または「垂直避難（屋内安全確保）」があります。

水平避難（立退き避難）

今いる危険な場所から可能な限り遠くにある安全な場所へ向かうこと。



垂直避難（屋内安全確保）

浸水による建物の倒壊の危険がないことを確認し、自宅や隣接建物の2階以上に避難すること。



●立退き避難について

町が指定している小中学校や公民館などの避難所に行くことだけが避難ではありません。立退き避難は下の3つの行動があります。普段からどこへ避難するか家族で決めておきましょう。

町が指定した避難場所や避難所への立退き避難

開設情報を確認し、避難しましょう。



安全な親戚・知人宅への立退き避難

普段から災害時に避難することを相談しておきましょう。



安全なホテル・旅館への立退き避難

通常の宿泊料が必要です。事前に予約・確認しましょう。



●立退き避難の注意点

避難するときは、隣近所で声をかけあい、なるべく複数人で避難しましょう。危険な箇所は避けて、遠回りでも安全な道を歩きましょう。

移動は二人以上で、みんなで助け合って避難を



一人だと、いざというときに助け合えません。避難するときは隣近所のお年寄りや障がいのある方に声をかけ、協力して避難しましょう。

避難は動きやすい服装で



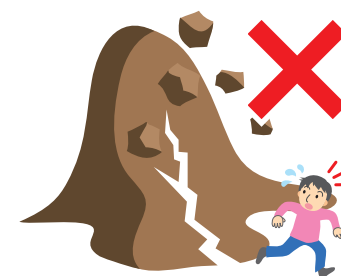
長靴やサンダルは危険です。運動靴をはき、両手が自由になるよう持ち物はリュックサックに入れて避難しましょう。

夜間の避難は要注意！



夜間の避難は周りの状況が確認しにくく、非常に危険です。可能な限り暗くなる前に避難しましょう。

危険な場所には近づかない



アンダーパスや河川の近くは浸水の可能性が高く、危険です。また、斜面は崩れ落ちる危険があるので、近づかないようにしましょう。

流れのある場所には近づかない



ゆるやかな流れでも、ひざの高さになると大人でも歩くのが困難です。流れのある場所に近づかないようにしましょう。

浸水している場所には注意が必要



浸水している場所は茶色く濁っており、水路と道路の境や側溝、ふたが開いているマンホールの穴は見えません。やむを得ず水の中を移動するときは、棒で足下を確認するなど、注意しながら移動しましょう。

逃げ遅れたときの注意点

すでに浸水が起きているなど、避難することでかえって危険を伴う場合は、建物の上階へ避難するなど少しでも命の助かる可能性が高い安全確保行動（屋内安全確保）を取ってください。

大雨に備えましょう

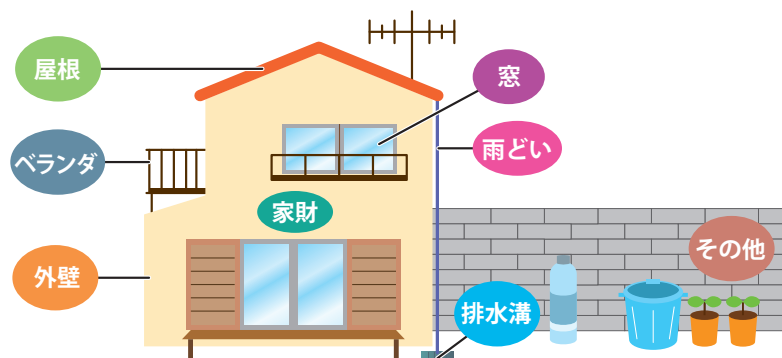
マイ・タイムライン

大雨で災害が発生する場合に備えて、P29を参考に事前にマイ・タイムライン（防災行動計画）を考えておきましょう。

非常持出品、備蓄品

P27なども参考に、いざというときに備え非常持出品、備蓄品の準備を行いましょう。

家の周りを確認し、対策を行う



屋根

- ☐ アンテナは不安定ではないか。
- ☐ トタンがめくれていないか。
- ☐ 瓦のひび・割れ・はがれがないか。

ベランダ

- ☐ 植木鉢や物干し竿など、落下や飛散の危険があるものはないか。

外壁

- ☐ 壁に亀裂はないか。

窓

- ☐ 窓枠のがたつきはないか。
- ☐ 雨戸にがたつきはないか。

雨どい

- ☐ 雨どいに落ち葉などが詰まっているか。
- ☐ 継ぎ目のはずれや塗装のはがれ、腐りはないか。

排水溝

- ☐ 排水溝にごみや土砂が詰まっているか。

家財

- ☐ 貴重品などは、すぐに持ち出せるようになっているか。
- ☐ 濡れて困るものは、あらかじめ高い場所へ移動しているか。

その他

- ☐ 商店などでは看板のぐらつきがないか。
- ☐ ごみ箱や植木鉢などは室内に入れるか、飛ばないように固定しているか。
- ☐ 庭木には添え木をしているか。
- ☐ ブロック塀はくずれそうになっていないか。
- ☐ プロパンガスのボンベは鎖でしっかり固定されているか。

家庭でできる浸水対策

家庭にあるものを土のうや止水板のかわりに使用することで、浸水を軽減することができます。

【例1】ごみ袋とダンボール

- ①ごみ袋を二重にして、中に半分程度の水を入れる
- ②ダンボール箱に入れ、連結する

【例2】ポリタンクとレジャーシート

- ①ポリタンクに水を入れる
- ②レジャーシートで巻き込み、連結する

【例3】プランターとレジャーシート

- ①土を入れたプランター
- ②レジャーシートで巻き込み、連結する

家で火事がおこったらどうすればよいか、考えてみましょう

ひとりで家にいるとき、台所からこげているにおいがし、のぞいてみたらコンロの上の鍋から火が出ていました。こんなときどうすればよいか、考えてみましょう。また、火事から避難するときはどうすればよいか考えてみましょう。



●火災のとき、どんな危険があるか考えてみましょう。

想定される危険

- ・
- ・
- ・

備えが必要な点

- ・
- ・
- ・

●村田町における火災

令和に入り、町内では火災が増加傾向にあります。建物火災が令和元年は2件、令和2年は5件、令和3年は7件と増えてきています。火の取り扱いに注意し、火災を減らしましょう。



コラム 消火器の使い方

消火器の使い方

- ① 安全ピンに指をかけ、上に引き抜きます。
- ② ホースをはずして、火元に向けます。
- ③ レバーを強くにぎって、噴射します。



消火器の構え方

- 火の風上に回ります。
- やや腰をおとして低く構えます。
- 熱や煙を避け、炎には真正面から向き合わないでください。
- 火を狙うのではなく、火の根元を掃くように左右にふりましょう。



火事を見つけたら

●火が発生したときは

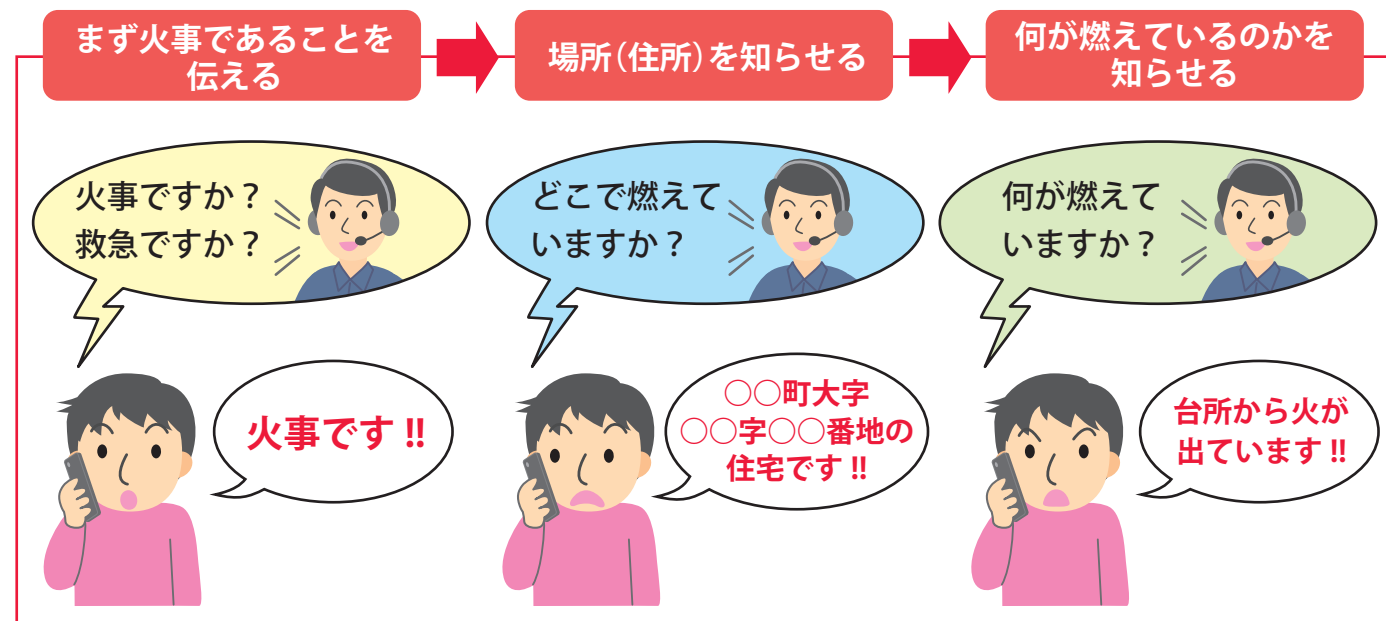


●火事から避難するときは



●消防署への電話

あわてず 119 番に電話をかけ、質問にはっきり答えましょう。

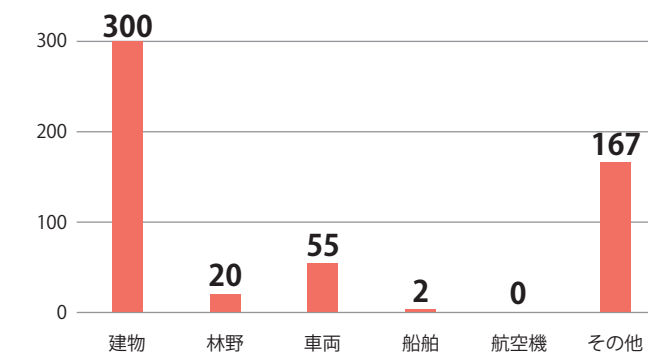


火災の原因

●宮城県内の出火件数

令和3年(速報値)の宮城県内の総出火件数は544件で、建物火災が300件で全体の55.1%と最も多く、次に、車両火災(55件)、林野火災(20件)発生しています。

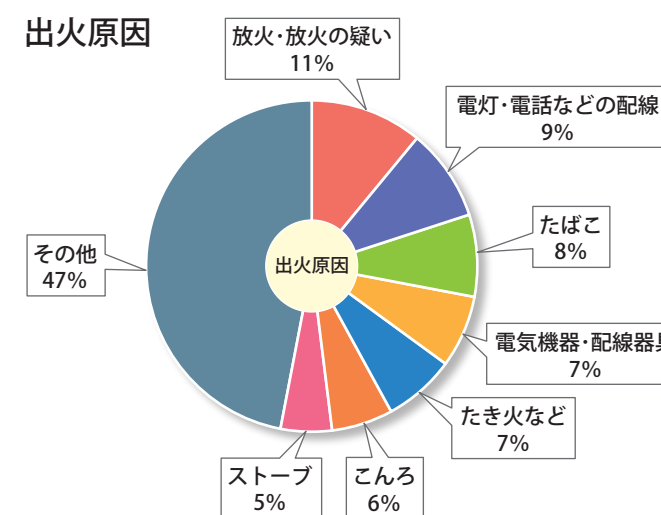
出火件数



●出火原因

火災のうち、建物火災が半数以上を占め、さらにその出火原因としては放火やいわゆる失火が多くなっています。P21の火災予防対策を見て、日ごろから火災を起こさないよう注意しましょう。

出火原因



●出火場所によって異なる消火方法



ガスコンロからの出火

火元に直接水をかけると、油が飛び散るなどして火災がひどくなるおそれがあります。消火器での消火が望ましいですが、ない場合は水で濡らした大きめのタオルやシートを手前からかけましょう。空気が遮断され、消火できます。

コンセントからの出火

出火しているコンセントにいきなり水をかけると、感電する危険があります。まずは、ブレーカーを落とし、電気を遮断してから消火器で消火しましょう。消火器がない場合は水で消火しましょう。

火災予防対策

放火

家の周りに置かれた新聞紙や古紙、段ボールなどに火をつけられるケースが多くなっています。死角になっている場所は特に注意が必要です。また、施錠していない物置などに放火されることもあります。



【対策】

- 建物の周りに燃えやすいものを置かない
- 空き家や物置には鍵をかける
- シャッターやガレージの扉は閉じ、センサーライトをつける

タバコ

タバコは、常に火災原因の上位を占めています。タバコのポイ捨てや寝タバコ、火がついたまま吸殻をゴミ箱に捨ててしまったなどが、その代表例です。

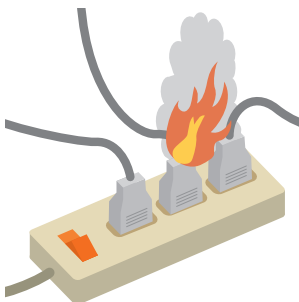


【対策】

- タバコを吸いながら歩きまわらない
- タバコはしっかりと消し、水をかける
- 布団に寝転びながら吸わない

電気火災

電気火災の原因には、プラグ部分にたまったほこりなどが湿気を吸い、そこに電気が流れてショートすることで発火するトラッキング現象が挙げられます。そのほか、電気コードを束ねたり、タコ足配線することにより発熱する、水がかかって漏電するなどのケースが考えられます。



【対策】

- プラグのまわりにほこりがたまらないように、定期的に掃除する
- 電気コードは束ねない
- 水槽の下に電源コードは置かない、防水カバーをつける

コンロ

コンロ関連の火災の原因で一番多いのは、火の消し忘れによるものです。他にも、コンロの火が袖に引火したり、コンロ周りの油かすに引火したりすることが火災の原因となることもあります。

【対策】

- キッチンのまわりはいつもきれいにしておく
- 火を使っているときはコンロから目を離さない
- 袖口はまくり、火にかからない様に気をつける



ごみの不法焼却(野焼き)

一部例外を除き『廃棄物の処理及び清掃に関する法律』により全面禁止になっています。違反した場合は、5年以下の懲役、又は1,000万円以下の罰金が科せられます。例外規定により焼却する場合でも、煙、臭気の発生、焼却灰の飛散等で周囲に迷惑のかからないよう十分配慮しましょう。

日ごろから取り組むこと

避難場所や避難経路を確認する

- ハザードマップを活用して、避難場所を確認しましょう。避難経路は複数決めておき、一度家族全員で歩いて、危険がないか、移動しやすいかを確認しておきましょう。
- 自宅最寄りの避難場所だけでなく、職場やよく行く場所の最寄りの避難場所を確認しておきましょう。



防災情報の入手先や家族の連絡方法を確認する

- 防災情報の入手先を、事前に確認しておきましょう。事前に登録することで、避難に役立つ情報がメールなどに届くサービスもあります。P28なども参考にして、いざという時のための防災情報の入手先を確認しておきましょう。
- 親戚や友人など、非常時の連絡先について確認しておきましょう。
- 災害用伝言ダイヤル「171」や災害用伝言板など、緊急時の連絡方法を確認し、その使い方を知っておきましょう。



マイ・タイムラインを作成する

- マイ・タイムラインとは、台風接近などで災害が発生しそうな場合などに、「いつ」「だれが」「なにをやるのか」を整理した住民一人ひとりの行動計画です。家族や地域で話し合い、マイ・タイムラインを作成しておきましょう。



非常持出品や備蓄品をチェックする

- 家族で必要なものが揃っているか、その保管場所がどこかを確認しましょう。
- 飲料水や非常食は定期的に取り換え、懐中電灯やラジオも定期的に動作するか確認しましょう。



自宅の内外をチェックする

- 地震の備えは、P7を確認しましょう。
- 大雨の備えは、P17を確認しましょう。



地域で防災に取り組む

- 地域の要配慮者の方への声掛けや、支援を日ごろから考えておきましょう。
- 地域の自主防災組織や消防団に参加し、地域の防災力を高めましょう。



町の避難施設

避難所	災害の危険性があり避難した住民などや、災害により家に戻れなくなった住民などを滞在させるための施設です。
緊急避難場所	災害が発生し、または発生するおそれがある場合にその危険から逃れるための避難場所です。
福祉避難所	指定避難所において特別な配慮が必要な方（高齢者、障がい者、妊産婦、乳幼児、けが・病気の療養者等）のうち、日常生活に全介助が必要な方のための避難所です。 なお、福祉避難所は、災害の種類・規模及び発生場所等を考慮して、開設します。

●指定避難所一覧(兼指定緊急避難場所)

No	名称	住所	電話番号	収容地区名
1	村田町中央公民館	村田字西田28	0224-83-2023	本町・本郷・荒町・内町・石生
2	村田町民体育館	村田字塩内2	0224-83-4729	
3	村田小学校	村田字迫6	0224-83-2049	
4	村田第一中学校	村田字七小路92	0224-83-2104	
5	村田高等学校	村田字金谷1	0224-83-2275	
6	沼辺地区公民館	沼辺字学校前62	0224-52-1644	沼辺南・沼辺北
7	村田第二小学校	沼辺字籠田72	0224-52-5922	寄井・千塚
8	村田第二中学校	沼辺字二丁町32	0224-83-2428	沼田・関場
9	小泉地区公民館	小泉字古館1-2		小泉西町・小泉中
10	旧村田第三小学校体育館	小泉字南乙内22		小泉東・薄木
11	姥ヶ懐地区公民館	小泉字道端9		姥ヶ懐
12	東足立地区公民館	足立字岫13		東足立
13	西足立地区公民館	足立字明神93		西足立・北向
14	菅生地区公民館	菅生字宮根59	0224-83-2301	菅生上・菅生下

●避難所開設の情報伝達方法

町は避難所を開設した場合は、次の手段で情報を発信します。

- ◇緊急速報メール ◇テレビ、ラジオ ◇SNSなど(LINE・フェイスブック)
◇町ホームページ ◇メール配信サービス ◇外部スピーカー ◇広報車

●緊急避難場所一覧

No	名称	住所
1	千塚生活文化センター	沼辺字館20-4
2	前千塚集会所	沼辺字新日の崎116
3	鹿野生活文化センター	沼辺字牡丹山73
4	細倉活性化施設交流センター	菅生字中細倉5-4
5	岡寄門ふれあいセンター	沼辺字寺前1-2
6	村田ふれあいセンター	村田字後田26
7	小泉ふれあいセンター	沼辺字南公1-1
8	沼辺ふれあいセンター	沼辺字五反田58
9	村田町町営住宅集会所 金谷	村田字金谷32
10	村田町町営住宅集会所 石生	村田字石生9-1

●自家用自動車等の退避場所(令和4年8月末現在)

災害の発生または発生するおそれがある場合に自家用自動車等の退避場所として、町内の企業様と施設使用協力の協定を締結させていただいております。退避場所を開設する際には、町ホームページ、LINEなどでお知らせいたします。

社会福祉法人宮城県障がい者福祉協会
(障害者支援施設「ふぼう」)

三丸化学株式会社	東北特殊鋼株式会社
東亜工業株式会社	大沼舗設株式会社

避難所での生活を考えておきましょう

避難所は、共同生活の場です。自分勝手場合があります。定期的に立ち上がり、スト

貴重品は常に携帯しましょう

過去の災害では、避難所での盗難が発生しています。貴重品は必ず持ち歩きましょう。



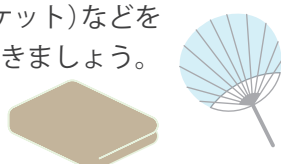
プライバシーを守りましょう

他人の荷物などを勝手に触ったり、のぞいたりしないようにしましょう。



暑さ/寒さ対策をしましょう

停電などで空調が使用できない場合に備えて、うちわや扇子、薄い毛布(ブランケット)などを用意しておきましょう。



協力して避難所運営を行いましょう

- 避難所マニュアルに従った秩序ある避難所運営を行いましょう。
- 住民どうしの役割分担、要配慮者への支援をしましょう。
- 助け合いの心を持ち、協力し合いましょう。



な行動はやめ、ルールを守りましょう。また、長時間同じ姿勢でいると、エコノミークラス症候群になるレッチをするなど、適度な運動を心掛けましょう。

感染症対策

P26の「基本的な感染症対策」を確認しましょう。

女性への配慮

女性が避難所なるべくストレスなく過ごせるように、就寝場所や専用スペースなどを巡回警備するなど、安全・安心への配慮が重要です。(女性用品の配布方法にも配慮が必要です)

ペットも同行避難

ペットと一緒に避難

村田町が指定する避難所では、ペットを連れて避難できますが、基本的に屋外での飼養となります。アレルギーなどがある避難者の方もいますので、周囲の方への十分な配慮をお願いします。



ペット用避難用具

衛生管理上、ペットは屋外となります。そのため、ケージは必ず持参していただくとともに、日ごろからケージに慣れさせておいてください。町ではペット用品の備蓄はしていません。ペット用品(食料など)は飼い主の方が持参してください。



新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)とはSARS-CoV-2と呼ばれるウイルスが原因で起きる感染症です。2019年12月に中国で初めて報告され、今もなお世界的な流行を見せています。

令和2年1月6日に国内で初めて新型コロナウイルス感染症の陽性者が確認されました。
宮城県では令和2年2月29日、村田町では令和2年11月4日に最初の陽性者が確認されています。

●日本での主な新型コロナウイルス感染症(変異株)

PANGO 系統 (WHO ラベル)	最初の検出	概 要
B.1.1.7 系統の変異株 (アルファ株)	2020年9月 英国	・感染性や重篤度への影響が示唆されている
B.1.617.2 系統の変異株 (デルタ株)	2020年10月 インド	・アルファ株と比較し感染性と入院リスクが高い可能性がある
B.1.1.529 系統の変異株 (オミクロン株)	2021年11月 南アフリカ等	・入院リスク、重症化リスクが低い可能性(デルタ株比) ・再感染リスク増加、ワクチンの効果を弱める可能性

●発令された対策など

新型インフルエンザ等特別措置法に基づき発出されたもの(宮城県内)

「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」

令和2年4月16日～令和2年5月14日

令和3年8月27日～令和3年9月12日

「新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置」

令和3年4月 5日～令和3年5月11日

令和3年8月20日～令和3年8月26日

令和3年9月13日～令和3年9月30日

宮城県独自のもの

「宮城県緊急事態宣言」

令和3年3月18日～令和3年6月13日

令和3年8月12日～令和3年9月30日

「リバウンド防止徹底期間」

令和3年 5月12日～令和3年 8月11日

令和3年10月 1日～令和3年10月31日

「みやぎBA.5 対策強化宣言」

令和4年 8月 5日～令和4年 9月30日

コラム 感染症対策

基本的な感染症対策

「三つの密」
の回避

人と人との
距離の確保

マスクの着用

手洗いなどの
手指衛生

適切な換気

●三つの密(密閉・密集・密接)の回避



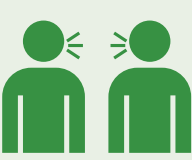
「密閉」

換気が悪い密閉空間である



「密集」

多くの人が密集している

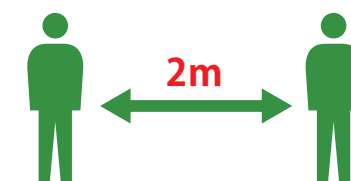


「密接」

互いに手を伸ばしたら手が届く距離での会話や発声が行われる

●人と人との距離の確保

人との間隔は、できるだけ2m(最低1m)空けましょう。
会話をする際は、可能な限り真正面を避けましょう。



●マスクの着用



必要な場面でのマスクの着用を推奨

- 屋内において、他者との身体的距離(2m以上を目安)がとれない場合
- 屋内において、他者との距離がとれるが会話を行う場合
- 屋外において、他者との距離がとれず会話を行う場合

※2歳未満児のマスク着用は奨めない。

●手洗いなどの手指衛生



手洗いの
5つのタイミング

- 公共の場所から帰ったとき
- 咳やくしゃみ、鼻をかんだとき
- ご飯を食べるとき(前と後)
- 病気の人のケアをしたとき
- 外にあるものに触ったとき

●適切な換気



こまめに窓を開けたり、機械換気を利用したりするなど、各家庭やお部屋の状況に合わせて定期的な換気を行いましょう。

非常持出品・備蓄品

●非常持出品

非常持出品は、避難するときに持ち出すものです。
持って運べるだけの必要最低限にし、リュックサックなど両手が使える袋に入れましょう。

貴重品類

- ☐ 預金通帳
- ☐ 印鑑 ☐ 現金
- ☐ 免許証
- ☐ 健康保険証

避難用具

- ☐ 携帯電話
- ☐ 懐中電灯
- ☐ 携帯ラジオ
- ☐ 充電器など
- ☐ ヘルメット・防災ずきん

生活用品

- ☐ 厚手の手袋
- ☐ 毛布

救急用具

- ☐ 絆創膏 ☐ 包帯
- ☐ 消毒薬
- ☐ 常備薬
- ☐ マスク
- ☐ おくすり手帳
- ☐ 体温計

非常食品

- ☐ 飲料水
- ☐ カップ麺
- ☐ 缶詰など

衣料品

- ☐ 衣類 ☐ 下着
- ☐ 防寒着など



●備蓄品

備蓄品は、災害直後から混乱が収まるまでに必要なものです。最低3日間分、できれば1週間分の備蓄をしておきましょう。

- 飲料水、生活用水
- 非常用給水袋
- 非常食（アルファ米、レトルト食品など）
- 携帯コンロ、ガスボンベ
- ラップ、アルミホイル
- 衛生用品
- 雨具
- 使い捨てカイロ
- 予備電池



ローリングストック法を！

「非常時には非常食を」と思っていますか？
非常時に食べるものは必ずしも非常食である必要はなく、ふだん食べているもので足りる。例えば缶詰やカップラーメン、レトルト食品などです。こういったものを普段の買い物のときに少し多めに買い置きし、日々使いながら減った分をまた買い足すことで、特別な準備や出費をせずに備蓄することができます。



防災関連情報の入手先

村田町 ホームページ

最新の防災・緊急情報が確認できます。
<https://www.town.murata.miyagi.jp/>



村田町メール配信サービス

災害・防災に関する情報などさまざまな情報を、登録者にメール配信します。
ml@mm.town.murata.miyagi.jp に空メールを送信するか、QRコードを読み取り登録してください。



村田町 LINE

災害・防災のほか町に関するさまざまな情報をお知らせします。
【アカウント名】宮城県村田町 【ID】@murata-town



宮城県 土木部総合情報システム

県内の河川流域情報、砂防情報、道路情報が確認できます。
<https://www.dobokusougou.pref.miyagi.jp/miyagi/servlet/Gamen30Servlet>



気象庁

気象警報、土砂災害警戒情報や、地震津波に関する情報が確認できます。
<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>



●キキクル(危険度分布)

「土砂災害」「浸水害」「洪水災害」の危険が、どこで、どのレベルで迫っているかを色分けし、一目で危険度がわかるようにしたサービスです。

国土交通省 川の防災情報

雨量情報や河川の水位などが確認できます。
<https://www.river.go.jp/index>



災害用伝言ダイヤル

災害用伝言ダイヤルとは、災害発生時に安否情報などが声で確認できる「声の伝言板」です。全国の一般電話、携帯電話から利用することができます。インターネットで利用できる災害用伝言板(web171)もあります。

自分の無事を知らせるために 伝言を録音する

伝言を録音する

1 7 1 → 1

自分の電話番号を
市外局番から入力する

「録音」する(30秒以内)

相手の無事を知るために 伝言を再生する

伝言を再生する

1 7 1 → 2

相手の電話番号を
市外局番から入力する

「再生」が始まる

マイ・タイムライン(一人ひとりの防災行動計画)

台風や大雨のような風水害はあらかじめ接近を予測できる災害です。大雨時に「いつ」「だれが」「なにをするのか」を家族と話し合っておきましょう。

また、自主防災組織においても地区におけるタイムライン(防災行動計画)を話し合っておきましょう。

警戒レベル		レベル 1	レベル 2
防災気象情報 (警戒レベル相当情報)		早期注意情報 (気象庁が発表)	洪水注意報・大雨注意報 (気象庁が発表)
河川	—	氾濫注意情報	
土砂災害	—	—	
キキクル (危険度分布)	—	「注意」(黄)	
とるべき行動		防災気象情報などの最新情報に注意し、災害への心構えを高める！ 今後気象状況悪化のおそれ 	ハザードマップなどで自宅の危険性を再確認し、どのような行動をとるか決めておく！ 気象状況悪化 
マイ・タイムライン		☐ 天気予報を確認 ☐ 家の点検・補強 ☐ 家族の予定を確認 ☐ 非常持出品と備蓄品の確認 ☐ 常備薬の準備(1週間)	☐ 避難方法と避難先の確認 ☐ 携帯電話の充電 ☐ 避難に時間がかかる方は避難の準備 ☐ 避難しやすい服装に着替える ☐ 避難先(親戚・知人宅)に連絡 ☐ ガソリンを入れる
①必要な行動にチェックをつけましょう。 ②その他に必要な行動があれば、空欄に書き足してください。		☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
【記入例】 ☒ 天気予報を確認 お母さん ☒ 家の点検・補強 お父さん			

レベル 3	レベル 4	レベル 5
高齢者等避難 (村田町が発令)	避難指示 (村田町が発令)	緊急安全確保 (村田町が発令)
氾濫警戒情報、洪水警報	氾濫危険情報	氾濫発生情報
大雨警報(土砂災害)	土砂災害警戒情報	大雨特別警報 (土砂災害)
「警戒」(赤)	「危険」(紫)	「災害切迫」(黒)
危険なところにお住まいの方で、高齢者や体の不自由な方などは安全な場所に避難を開始！ 災害のおそれあり 	危険なところにお住まいの皆さんは、安全な場所にすぐに避難を開始！ 災害のおそれ高い 	直ちに自らの命を守る！ 災害発生または切迫 
☐ 避難所の開設状況の確認 ☐ 防災情報を確認 ☐ 非常持出品を手元に準備 ☐ 自宅の2階へ備蓄品を移動 ☐ 火の元、戸締りの確認 ☐ 避難を開始 ☐ 自主防災組織へ避難の連絡	☐ 防災情報を確認 ☐ 避難所や安全な親戚・知人宅に避難 ☐ 自宅の2階へ避難 ☐ 自主防災組織へ避難の連絡	☐ テレビやラジオをつけたまま防災気象情報を確認 ☐ 外に出ず、自宅内の少しでも安全な場所へ避難 ☐ 自主防災組織へ安否報告
☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

警戒レベル4までに必ず避難！

はじめに

地震

大雨(洪水・土砂災害)

火災

災害に対する備え

はじめに

地震

大雨(洪水・土砂災害)

火災

災害に対する備え

地震発生！ そのときどうする？

大きな地震が発生したとき、冷静に対応するのは難しいものです。しかし、一瞬の判断が生死を分けることもあります。いざというとき「あわてず、落ち着いて」行動するために、行動パターンを覚えておきましょう。

●地震発生

●身の安全を最優先に行動する。

- ・頭を座布団などで保護して、丈夫な机やテーブルなどの下にもぐり、机などの脚をしっかりと握る。(屋内)
- ・カバンなどで頭を保護し、できるだけ建物から離れる。ブロック塀や自動販売機の転倒、垂れてくる電線などにも気を付ける。(屋外)



●地震直後の行動(揺れがおさまってから)

- 揺れがおさまったら家族で声を掛け合い、お互いの安全を確認する。
- 火の元の確認し、出火していたら初期消火を行う。
- ドアや窓を開けて出口を確保する。
- 非常持出品の用意を！ガスの元栓・電気のブレーカーを切る！



●地震後の行動

- 正しい情報をつかむ。
- 状況に応じて冷静に対応。
 - ・家屋倒壊の危険などあれば避難する。
 - ・となり近所の安否確認。
 - ・町内会、自主防災会で安否確認を。
 - ・地域ぐるみで協力し合って救急、救護、初期消火。



◆緊急地震速報を活用して身を守ろう

- 最大震度5弱以上が推定される場合、テレビやラジオ、携帯電話を通じて緊急地震速報が発表されます。
- 速報発表から揺れが来るまでの時間は、数秒から数十秒くらいです。
- 速報は的中するとは限りませんが、自分の身を守るため、最大限に活用しましょう。

火災発生！ 初期対応の3原則を覚えましょう

出火の現場に居合わせたらまず「通報」それから「初期消火」「避難」の順番で行動するのが原則です。ただ状況によって優先順位は異なりますので、逃げ遅れないように、あわてず冷静な判断を心がけましょう。

行動1

【通報】早く知らせる！

隣近所、周囲に知らせる。
どんなに小さな火事でも必ず119番に通報する。



行動2

【初期消火】早く消す！

初期消火。
出火直後が消火のチャンス。
(天井まで火が燃え広がったら
消火は困難。無理せず早めに避難)



行動3

【避難】早く逃げる！

命を最優先に！
消火が困難なときは、無理せず避難する。



◆住宅用火災警報器の重要性

住宅などで設置が義務付けられており、火災が発生した際に、熱や煙を感知して音で知らせてくれるのが住宅用火災警報器です。

就寝中などで、火災の発生に気づかず煙を吸ってしまい逃げ遅れることを防ぎます。

火災が発生しても、電池切れなどで警報器が作動しないおそれがあるため定期的に点検しましょう。

災害に遭わないために 被災者からの声 ～一日前プロジェクト～

日ごろ、私たちは「自分は大災害に遭うことはない」と漠然と考えています。けれども、近年の大災害を見ても、思いもよらないところで多くの災害が発生しています。この「一日前プロジェクト」は、被災者の方々にインタビューに応じていただき、その話の中から身につまされる小さな物語を生み出すことをねらいとしています。

風水害 備えなければ憂いあり (令和元年東日本台風 60代 男性)

私は日頃から家族の中で、何かあった場合に避難するときには、安全な次女のアパートに一旦集合しよう。それから避難所へ移るか、そのままアパートにいて良いかどうかを判断しようというような話し合いをしていました。事前に家族の中で避難についての話ができているかが大切だと思います。

住民自治協議会では、水害をきっかけに地区で活用できる「我が家の避難計画」と「マイ・タイムライン」を作成しました。地区全体の状況を把握しておくために、自分の逃げる場所を記入してもらい、携帯の連絡先も書いてもらうことにしました。

そして、避難した場合は、必ず区長さんなりに「〇〇に避難しました、無事です」と自分から連絡してもらうようになっています。

農家の人にとって農機具はとても大事なものですから、警戒レベルのどの段階でどこへ移動させるか。ペットを避難所へ連れていけるのか、行けない場合はどうするのか。子どもがいらないから避難先はホテルにしようかといったことを普段から考えてもらうようにしました。「備えあれば憂いなし」の逆で、「備えなければ憂いあり」なのです。

風水害 家の階段を上がって来る水に唖然 (令和元年東日本台風 60代 男性)

防災無線などで頻繁に避難勧告が来ていたのですが、自分はその段階でも避難せずに、水位が上がってきたら食料がないと困るから握り飯とカップ麺を持って上がろうとか、水が押し寄せてきたらビデオを撮らなくちゃいけないとか、ライフジャケットも持っていこうなど、妙なところで可笑しいくらい冷静でした。



夜中の12時くらいから越水したのかサーっという音がし始め、3時過ぎからゴーっという音に変わり、4時になると階下のガラス窓が割れる音がして、『これは決壊したんだな』とわかりました。

そのときには電源も落ちてしまって、周りの状況がよく分からなかったのですが、目視できる範囲では、1階の屋根の近くまで水が来ているような感じでした。

サーっという音がゴーっという音に変わったとき、『これは現実の事なのか？』と。そして、薄暗い中、家の階段の上から7～8段目とだんだん水が上がってきたときに、初めて、とんでもない事が起きている、現実なのだと思います。



親のしつけに感謝～我が家の防災教育はとてもシンプル～

(平成23年東日本大震災 60代 女性)



私たち6人姉弟は、地震が起こるといつも、「地震だ、逃げろ！それー」って、ランドセルを背負って近くの山に逃げました。ランドセルが空っぽだからと教科書をとりに行こうとすると、「絶対に戻るな！」と言われました。

夜は公民館へ逃げました。真っ暗でも着られるように服をたんで順に枕元に置いて寝ること、すぐに外へ出られるように玄関の靴を揃えておくことが我が家の決まりでした。

東日本大震災の日も、迷わず逃げることを選びました。地震が起きたのは5時間目の授業中。校舎がメキメキと揺れる中、生徒を集め、一枚ジャケットを羽おらせ、中学生には小学生を手伝わせて避難しました。

私の両親は昭和三陸津波で家族を失っています。それだけに、子どもたちに津波の恐ろしさを徹底して教えてくれたのだと思います。とてもシンプルな分かりやすい防災教育でした。

高齢夫婦の安否確認「頼んでない」負けるもんかと続けた見守り活動で心開く

(平成28年熊本地震 70代 男性)

1回目の地震で自宅は半壊。その後、家に妻と娘を残して、安否確認のため地域全戸に声かけを行いました。

地域には、奥さんは寝たきり、旦那さんは両杖ついてやっと歩けるような高齢夫婦がいて、いつも気にしていたので、まずそこへ行きました。すると開口一番、「わしたちは、自治会に対しては助けてくれなんて一言も言っていない」と言われたのです。

地域に民生委員もおりますが、女性二人なのですぐに声かけに向かうのは難しかったのだと思います。帰る前には、「早くボランティアを呼んでくれ」と。

それでも負けるもんかと声かけを続けていたら、今では顔をみると向こうから声をかけてくれるようになりました。

障がいや寝たきりって他人に見られたくないものなので、壁を作っているのですね。壁をとっばらったら、向こうから近づいてくるようになると思うのです。みんながそうではないとは思いますが。



被災者からの声「一日前プロジェクト」から感じたことを書きましょう！

出典：内閣府ホームページ (<https://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/ichinitimae/>)

防災に関する地域の取り組み

地域で助け合いましょう

高齢者やお体の不自由な方は、避難行動に時間がかかる場合が考えられます。日ごろから、地域で声を掛け合い、災害時に支援できるようにしておきましょう。

高齢者・病気の人

車いすやストレッチャーなどの移動用具が確保できない場合や急を要するときには、担架やおんぶなどにより避難させてください。また、病気の場合は、使用している医療機材や医薬品を確保するようにしましょう。



耳の不自由な人

大きく口を動かすなど身振りや筆談で状況を説明し、避難所へ誘導しましょう。



目の不自由な人

「おてつだいしましょうか」などと、まず声をかけ、ゆっくり、はっきり、大きな声で話しましょう。

誘導するときは、つえを持っていない腕のひじのあたりに軽くふれるか、腕を貸しながら半歩前をゆっくり歩いて誘導しましょう。



車いすの利用者や足の不自由な人

それぞれの人に適した誘導方法を確認し、早めに避難させましょう。車いすの場合は、階段では必ず3人が協力し、上がるときは前向きに、下がる時は後ろ向きにして、恐怖感を与えないようにしましょう。



コラム 一般住民向け応急手当web講習

消防庁が一般住民向けに、救命講習をWEBで公開しています。心肺蘇生・AEDの活用などの応急手当を学ぶことができます。

<https://www.fdma.go.jp/relocation/kyukyukikaku/oukyu/>



自主防災組織

災害が大きくなるほど、公的機関がすべてのことに対応することは困難となります。このため、発災直後の防災活動において、「自らの身を自らで守る」という意識のもとに行動することが必要です。

自主防災組織とは、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚、連帯感に基づき、自主的に結成する組織です。村田町では、自主防災組織は行政区単位で組織されています。

災害の被害を防止、または軽減するために地域の方々が連携し防災活動を行います。

住民の自主的な防災活動として出火防止、初期消火、被災者の救出・救護、避難等を行うことが必要であり、特に要配慮者の所在を把握し、救出・救護体制を整備するなどの配慮が必要です。



消防団

消防団は、わたしたちの住む地域を火災や自然災害から守り、地域の防災リーダーとして重要な役割を果たしています。町の安心・安全のため、そしてこの町に暮らす人々の笑顔を守るためぜひ力を貸してください。詳しくは、お住まいの地区の消防団員、または『村田町役場 総務課防災班』（TEL0224-83-2111）までお問い合わせください。

● 平常時の活動

《消火・防災訓練》

火災現場での消火活動を想定した訓練を行っています。また、各地域で開催される防災訓練にも、積極的に参加しています。

《防火啓発活動》

春と秋に開催される火災予防運動期間中を中心に、各家庭を訪問し、防火指導などの啓発活動を行っています。

● 災害時の活動

《消火活動》

火災が起こった際は、自宅や職場から現場に駆けつけて消火活動を行います。初期消火や、消防隊員の後方支援など、その場に応じて活動を展開させます。

《搜索・救助活動》

災害が起こった場合、地域を知り尽くした消防団の搜索・救助活動は大きな力になります。大規模災害時には発生直後から地域と連携し、搜索・救助活動や避難誘導を行います。

《水防活動》

風水害の際は、河川などの巡視・警戒や、土のうを準備して適切に積んだりする活動もあります。また、消防職員と協力して住民の避難や救助を行うとともに、災害復旧作業も支援します。

町の取り組み

町では、避難行動要支援者の方を支援するための名簿づくりや、助成金などを活用して、個人や地域のみなさんが防災に取り組む支援を行っています。

避難行動要支援者名簿への登録
お問い合わせ 健康福祉課 0224-83-6402
木造住宅耐震診断助成事業、木造住宅耐震改修工事促進助成事業
お問い合わせ先 建設水道課 0224-83-6407
村田町ブロック塀等除却事業
お問い合わせ先 建設水道課 0224-83-6407
消防団協力事業所表示制度
お問い合わせ先 総務課 0224-83-2111
自主防災組織支援事業補助金
お問い合わせ先 総務課 0224-83-2111
『防災』キャンプ
お問い合わせ先 生涯学習課 0224-83-2023

●防災訓練

防災訓練は、いつ来るかわからない災害に備えるものです。町では、町民の安全・安心のため万全の体制で災害時の任務を的確に遂行できるよう職員の初動、本部設置、情報伝達、避難所設営など防災訓練を定期的に実施しています。



チャレンジテスト

次の内容について、正しいと思うものに○をつけてみましょう。
答えがわからないときは、ヒントページを確認してみましょう。

設問 1 地震 家にいて強い揺れを感じたので、急いで家の外に逃げた。 ヒントはP6	回答欄	設問 11 火災 鍋から火が出たが、近くに消火器がなかったので急いで水をかけた。 ヒントはP20	回答欄
設問 2 地震 車を運転中に強い揺れを感じたので、エンジンを切りキーは車内に残し、ドアロックをせずに車から離れた。 ヒントはP6	回答欄	設問 12 火災 電源が足りなかったので、タコ足配線した。 ヒントはP21	回答欄
設問 3 大雨 (洪水・土砂災害) ため池の決壊は大雨だけが原因で起こる。 ヒントはP9	回答欄	設問 13 備え ふだんからハザードマップなどを見て、自宅周辺の災害発生の危険度や万一の際の避難先などを確認している。 ヒントはP22	回答欄
設問 4 大雨 (洪水・土砂災害) 家の裏のがけから小石がパラパラ落ちてきたので、避難指示は発令されていないが自主的に避難した。 ヒントはP10	回答欄	設問 14 備え ペットも大事な家族なので、避難所内で一緒に過ごした。 ヒントはP24	回答欄
設問 5 大雨 (洪水・土砂災害) 町から避難指示が発令されたが、これまで災害が起きたことはないので避難しなかった。 ヒントはP11	回答欄	設問 15 備え 避難所では、感染症対策のため、マスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保、こまめな消毒などを心掛けた。 ヒントはP24、26	回答欄
設問 6 大雨 (洪水・土砂災害) 警戒レベル5が発令されたので、避難場所に避難した。 ヒントはP11	回答欄	設問 16 備え 備蓄品は特別なときに使うものなので、準備したら災害が起きるまでさわらない。 ヒントはP27	回答欄
設問 7 大雨 (洪水・土砂災害) 大雨のときに近くの川が気になったので様子を見に行った。 ヒントはP16	回答欄	設問 17 備え 備蓄品は、家族全員の7日間分を準備した。 ヒントはP27	回答欄
設問 8 大雨 (洪水・土砂災害) 大雨のとき、足が濡れないよう長靴を履いて避難した。 ヒントはP16	回答欄	設問 18 備え 災害時に自分の無事を連絡できる災害用伝言ダイヤルを利用するため、177に電話を掛けた。 ヒントはP28	回答欄
設問 9 火災 火災が起き一度避難したが、大事なものを置き忘れたことに気づき取りに戻った。 ヒントはP19	回答欄	設問 19 備え 自主防災組織から防災訓練のお知らせがきたが、どうせ災害は起きないと思い欠席した。 ヒントはP36	回答欄
設問 10 火災 宮城県における令和3年の出火原因(放火を除く)で一番多いものは、ストーブによるものである。 ヒントはP20	回答欄	設問 20 備え 災害が起きたら行政が支援してくれるので、それを待っていればよい。 ヒントはP36	回答欄

(×) 02 〇〇〇〇 (×) 61 〇〇〇〇 (×) 81 〇〇〇〇 (○) 21 〇〇〇〇 (×) 91 〇〇〇〇 (○) 11 〇〇〇〇 (×) 14 〇〇〇〇 (○) 31 〇〇〇〇 (×) 22 〇〇〇〇 (×) 11 〇〇〇〇 (×) 01 〇〇〇〇 (×) 6 〇〇〇〇 (×) 8 〇〇〇〇 (×) 7 〇〇〇〇 (×) 9 〇〇〇〇 (×) 5 〇〇〇〇 (○) 4 〇〇〇〇 (×) 3 〇〇〇〇 (○) 2 〇〇〇〇 (×) 1 〇〇〇〇